福井市内49地区社協と市社協をつなぐ情報紙

むすんでひらいて

第58号
発行日
令和7年9月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
（社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内）
TEL 0776-26-1853　FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバックナンバーをご覧いただけます

福祉委員スキルアップ研修会　開催

テーマ

「地域の中で認知症や高齢者をやさしく見守るために」

～専門職・家族の声から～

6月8日（日）、市内の福祉委員を対象として、スキルアップ研修会を開催しました。当日は78名が参加し、講師には福井中央北包括支援センター認知症コーディネーターの見鳥 昌代氏と、介護者家族の本多 良彦氏を迎え、専門職と、家族の立場からそれぞれお話いただきました。

見鳥氏から、「認知症を自分事として備え、新しい認知症観に転換してほしい」というお話がありました。新しい認知症観とは、「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になっても一人ひとりができること、やりたいことがあり、希望をもって自分らしく地域で暮らし続けることができる」という考え方です。認知症の方々や家族を見守る上では、一人ひとりの「大丈夫かな？」という気づきが重要であるといった視点を学びました。

また、本多氏からは、「認知症の早期発見は、職場や家族がキーポイントであり、少しでもおかしいなと感じたときに、本人の家族に伝えてほしい」というお話がありました。加えて、自分事として、家族やご近所同士、また専門機関など、地域全体で関わることや、地域での居場所づくりの大切さについて語られました。

参加者からは、「介護者家族の話を聞き、認知症がより自分事として感じられた」、「認知症や高齢者の方をやさしく見守る心構えを学べた」という声が多く聞かれ、日頃の見守り活動を振り返り、認知症観を改め、今後の福祉委員活動について考えを深めることができました。

今後も、福祉委員の方とも情報を共有し、認知症になっても、地域の一員として役割を持ち、活躍できる地域づくりを推進してまいります。

いろんなカタチの見守り活動

市内49地区社協では、福祉委員や民生委員・児童委員などと連携し、各地区の気がかりな方の見守り活動を行っています。今回はその取り組みについてご紹介いたします。

湊地区社協

福祉委員と民生委員合同のワークショップ開催

湊地区社協では、地区社協活動の良さをどう広げていくかなどに課題感を感じ、今年度から「親子で地域福祉活動に参加できる企画」について考えていくことになりました。

そこで7月5日、まずは、福祉委員と民生委員・児童委員自身の「福祉活動の楽しさややりがい」に気づくワークショップを開催しました。各班に分かれて、普段の活動で知り合いが増えてつながる楽しさや喜びを感じたり、生まれ育った地区でありながら、地域の人たちのことを何も知らなかったことに気づいたなど意見交換し、活動で大切にしたいこと、どんな湊地区にしたいかなど意見を出し合いました。

参加者からは、「ちょっとした変化に気づくことのできる近所付き合いをしたい」、「日頃の挨拶から、支え合い、助け合い、絆の深まる地区にしていきたい」等の声がありました。

今後は「子どもと参加できるボランティア活動を考えてみよう」というテーマで、再びワークショップを行います。

和田地区社協

一人暮らし高齢者にゴキブリ団子の配付

和田地区社協では毎年、ゴキブリ駆除剤である「ゴキブリ団子」を高齢者宅や児童クラブ等の施設に配っています。

この事業は、食事サービスを行わない期間でも、高齢者の方の様子を見守る機会として取り組んでいます。

今年も5月10日に和田公民館に、社協役員、福祉委員、民生委員・児童委員、保健衛生推進員が集まり、約1800個のゴキブリ団子を約1時間で完成させ、民生委員・児童委員が配付を行いました。

地区の方からは「和田地区からゴキブリがいなくなった」と毎回好評です。

活動を通して、ゴキブリが減るだけでなく、地区内での顔の見える関係づくりにもさらにつなげていきたいと考えています。

河合地区社協

防災を意識した見守り活動

河合地区では今年6月22日、市総合防災訓練に合わせて、福祉委員が町内のひとり暮らし高齢者の安否確認の訓練を行いました。

訓練当日、福祉委員の毛利純子さんは、3人のお宅に訪問し「訓練ですが、一緒に避難所に行きませんか」と声をかけながら、一次避難所の川合鷲塚集落生活改善センターへ歩いて向かいました。

一緒に避難行動をされた毛利さんは、「一人で避難所へ行くより誰かと行動するのは心強かった。この先、年を重ねると一人で避難できるかはわからないし、近所のつながりを大切にしていきたい」。また、毛利純子さんからは、「訓練というきっかけで訪問し、お話ができた方もいてよかった。今後、ひとり暮らし高齢者等も増えるので声をかけ合うことは必要で、こうした訓練は大切だ」と話してくれました。

普段の活動を
よりスムーズに!

ICT活用研修会を開催しました

【ＩＣＴって?】

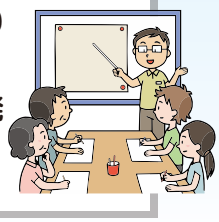
ICT（Information and Communication Technology）とは、情報処理や通信技術の総称であり、その活用により、業務の効率化やインターネットを利用した情報共有・円滑なコミュニケーション等の効果が期待されています。

地区社協運営に役立つ手法を学ぶため、地区社協役員を対象とした、ICT 活用研修会を８月５日、６日、７日の３日間に分けて開催し、21地区36名が参加されました。

当日は、市社協職員が講師を務め、参加者が自身のノートパソコンやスマートフォンを持ち込み、実際に操作しながら、Google フォームとグループ LINE の活用方法について研修を行いました。

参加者からは「普段Googleフォームや LINE を使用していても、知らない機能があった」、「今後積極的に利用し、地区の中で使えるようになりたい」等の声がありました。

今後も地域福祉活動の更なる円滑化と効率化を推進していくための情報を発信してまいります。



令和7年度　各地区社協会長の皆様

（令和7年8月1日現在）

（敬称略）

	地区名	会長名
あたご	木田	平　重道
	豊	山田　耕一
	足羽	笈田　信幸　★
	湊	梶本　重成
不死鳥	春山	島川　由美子
	宝永	松成　嘉實
	順化	村田　眞一
	松本	黒川　俊枝
	日之出	毛利　茂則
	旭	重久　修造　★
	日新	中川　忠洋
みなみ	清明	奥村　清治
	東安居	松山　昭一　★
	社南	内田　佳次
	社北	吉田　晴美
	社西	今冨　廣子
	麻生津	辻森　直邦

	地区名	会長名
あずま	和田	清川　忠幸
	円山	吉岡　和子
	啓蒙	道端　利枝子
	岡保	吉村　義昭
	東藤島	野路　次夫
九頭龍	西藤島	手鹿　賢則　★
	中藤島	白崎　和子
	河合	橋本　正夫　★
	森田	三澤　高信
	明新	加賀　のぞみ
光	安居	牧野　忍
	一光	竹田　法英
	殿下	長谷　孝雄　★
	越廼	山本　正男
	清水西	野村　藤孝
	清水東	鎌田　正弘
	清水南	荒井　彦一
	清水北	白崎　俊雄

	地区名	会長名
川西	大安寺	田安　敏男
	国見	刀祢　茂美
	鶉	清川　清治
	棗	宇佐美　敏男
	鷹巣	丸山　喜美恵
	本郷	松並　久太夫
	宮ノ下	小西　安一
足羽	酒生	宮浦　知恵子
	一乗	朝倉　由美子
	上文殊	増永　秀一
	文殊	乗川　重一
	六条	寺横　紀廣
	東郷	前川　まゆみ
	美山	辻本　治男

★新任の会長

第21回

地区社協の活動と取組みを紹介します

森田地区
「ボランティア活動で通じるふれあい福祉」

森田地区は現在居住人口増加地区になって、小学校は福井県1位の生徒数になり、まもなく2校化されます。森田中学校が「九頭竜中学校」として移動新築され、中学校跡が「森田東小学校」として誕生します。高齢者については、従来から住んでいる高齢者に加えて、転入されてくる方が親と同居される家庭が増加しています。

地区社協では、民生委員・児童委員、福祉委員、保健衛生推進員、ボランティアグループさざなみ会員4団体の協力を得て活動しています。

敬老会では、民生委員・児童委員が76歳以上の方への訪問、出席のご意向を伺い、当日は民生委員・児童委員、福祉委員に加え、一昨年からは中学生ボランティアの協力も得て開催しています。

他には、ふれあい健康ファミリーウォーキング大会を開催しています。コロナ禍で一時中断していましたが、今年度は4月に九頭竜川河川緑地で高齢者との触れ合いを深めるため、ボランティアスタッフを募集し開催しました。森田中学1年生や医療関係者等のボランティア方々の協力により住民を巻き込んだ新しい取り組みで開催することが出来ました。

今後も、社協関係者だけでなく、ボランティア活動を推進し、高齢者とのふれあいの機会を増やしていきながら「高齢者にやさしいまちづくり」を目指していきます。

森田地区社会福祉協議会
会長　三澤　高信

ふれあい健康ファミリーウォーキング大会の様子

文殊地区
「充実した福祉活動で住みたくなるまちづくり」

文殊地区は福井市の南部に位置し、県内有数の登山者が多い文殊山を仰ぎ見る田園風景の広がる自然豊かな地区です。奈良時代の地図にもある東大寺荘園の「糞置荘」、泰澄が文殊山を開くとき井戸をくまれ文殊菩薩を祀ることをお告げされたという「文殊井筒」、平安中期以降につくられた国の重要文化財「十一面観音立像」などの歴史が残っています。

地区社協では、自治会及び公民館でのデイホーム（文殊いきいきサロン）を始め、福祉委員による安否確認を兼ねての配食サービス、民生委員・児童委員による月1回の見守り、年末は絵手紙を発送し、年明けに一人暮らしの高齢者宅へ訪問し声かけなど行っています。

地域の方が一堂に集まる事業として「敬老会&福祉まつり」を児童の和太鼓演奏、児童館のこどもたちのダンス、福井南高校の生徒による健康体操、抽選会、作品の展示・活動パネル・専門委員による健康相談コーナーを実施しています。

また、「一日交流会」には多くの参加者があり、温泉施設に出向いて、入浴や昼食を囲みながら日頃の身体や心を癒し楽しい日を過ごしています。

近年、文殊いきいきサロンの参加者が減少しつつあることから年齢制限なく誰でも気軽に参加できるような内容を考えています。今後は、こどもたちにも福祉活動に関心を持ってもらい、自治会連合会・各種団体などと力を合わせ、元気で明るい充実した地域福祉活動を展開していきたいと思っています。

文殊地区社会福祉協議会
会長　乗川　重一

絵手紙作成の様子